

ミャンマーのための祈り

—この祈りの本は、個人や家庭、教会などでミャンマーのために祈ることにのみお用ください。他の目的でのご利用はご遠慮ください。

—この本の内容を無断で転送したり、インターネット上で掲載したりすることはお控えください。印刷してご利用になったものは、資源ごみとしてではなく、シュレッダーなどにかけての廃棄をお願いいたします。

—現在、ミャンマーの状況は刻一刻変わっており、この本は2021年7月の情報に基づいています。なお、補足として翻訳チームが日本語版の利用者のためにわかりやすく説明している部分や、情報を追加している部分があります。

—聖書 新改訳2017を使用しました。

この祈りの本の著作権はGolden Shore Initiativeにあります。日本人翻訳ボランティアチームがGSIの許可をいただき翻訳、発行したものです。

コロナの流行に伴いミャンマー国内で非常に困難な状況が続いていることから、GSIから許可をいただき、日本人のボランティアチームでコロナの状況に対する祈りの課題を追加しました。

聖書 新改訳2017©2017 新日本聖書刊行会 許諾番号 4-2-772 号

はじめに

「ああ、あなたが天を裂いて降りて来られると、山々はあなたの御前で揺れ動きます。目で聞いたことありません。あなた以外の神が自分を待ち望む者のために、このようにするのを。」 イザヤ64:1, 4

植民地時代からビルマとも呼ばれるミャンマーには、130以上の民族グループからなる5400万人以上が住んでいます。仏教の僧侶や尼僧の割合が世界で最も高く、キリスト教徒、イスラム教徒、ヒンズー教徒は少数いますが、人口のおよそ85%が仏教徒です。仏教は、この美しく多様な土地に何世紀にもわたって深く根をおろしています。

ミャンマーはこの10年間、軍政から民政への道を辿ってきましたが、2021年2月1日、国軍はそれを葬り去るかのようにクーデターを起こしました。以来、人々は暴虐と混乱と絶望の渦に巻き込まれています。数万人がクーデターを非難する声を上げ、数千人が逮捕され、軍の激しい弾圧で900人以上が死亡しました。もはや国内には、不安や混乱、そして死の恐怖から逃れることのできる場所はありません。

言論や宗教の自由がなく、民主主義が弾圧されているこの暗闇の真ん中でも、主がミャンマーをこころに留めておられると私たちは信じます。ミャンマーの、生まれたばかりの民主制は崩されてしまったようにさえ見えますが、私たちは決して過ぎ去らない御国があることを知っています。その王である神は、このような制限の中、私たちには思いもつかない方法で御国を前進させることができになります。ミャンマーにおける神の贖いの物語はまだ終わっていません。私たちにも役割が与えられています。祈りを通してこの贖いの物語に加えられるのです。

全世界に広がるキリストのからだの一部として、ミャンマーのためにもなお祈りください。この30日の祈りの小冊子が、ともに主を待ち望む私たちを導き、心を満たす助けとなるように願っています。主がミャンマーを覚えておられるその同じ思いを、私たちにも与えて下さいますように。この美しい国のために、主が天を裂き山々を揺り動かしてくださいますように！

目次

はじめに

<u>1. 民主主義を求める抗議</u>	1
<u>2. ともに苦しむ</u>	2
<u>3. 「服従しない」という決断</u>	3
<u>4. 女性たち</u>	4
<u>5. 残忍な軍</u>	5
<u>詩篇 10篇</u>	6
<u>6. 偶像を離れる - マンダレー</u>	10
<u>7. 停滞する経済</u>	11
<u>8. 脱走兵、逃走者たち</u>	12
<u>9. 主に救えない人はいない</u>	13
<u>10. 子どもたち</u>	14
<u>11. 暴力の激化</u>	15
<u>12. ヤンゴンのスラム街での飢餓</u>	16
<u>13. 働きに伴う危険</u>	17
<u>14. 内戦?</u>	18
<u>15. タイにいるカレン族難民</u>	19

<u>詩篇 91篇</u>	20
<u>16. 隠せない</u>	23
<u>17. オンライン伝道</u>	24
<u>18. チン州の抵抗者たち</u>	25
<u>19. 民族の一致</u>	26
<u>20. 監視する目</u>	27
<u>21. シャン州におけるサバイバル</u>	28
<u>22. テインジャン(新年水祭り)</u>	29
<u>23. 社会的懲罰</u>	30
<u>24. 国民統一政府 (National Unity Government)</u>	31
<u>25. 捕らわれ人</u>	32
<u>詩篇 146篇</u>	33
<u>26. ロヒンジャ族の希望</u>	35
<u>27. 敵を愛する</u>	36
<u>28. 闇の抗争に巻き込まれる</u>	37
<u>29. スラムに生きる</u>	38
<u>30. 仏教との不協和</u>	39
<u>おわりに</u>	40

日本語版追記 ミャンマーコロナの現状のためにお祈りください。

<u>31. コロナ感染拡大 現況概観</u>	42
<u>32. 医療関係者の闘い～クーデターそしてコロナ</u>	43
<u>現場レポート ボランティアのこと</u>	44
<u>33. 市民の暮らし～不安の中に</u>	45
<u>34. 教会～コロナ禍の中で仕える</u>	46

1日 民主主義を求める抗議

「その主権は永遠の主権。その国は世々限りなく続く。」 ダニエル書
4:34

ミャンマーのクーデターから数日のうちに、数千人規模の市民が街頭を埋め、逮捕された指導者たちの釈放と民主制度の回復を、怒りをもって要求しました。群衆は民主支持の旗やスローガンを、そして映画『ハンガーゲーム』の反独裁シンボルである三本指を掲げました。その抗議運動の高まりはSNSで世界に発信されました。多くのクリスチャンもそれに参加しています。しかしあるリーダーはこう語ります。「民主主義へのデモは重要で、私も賛成します。しかし主イエスの時代、神の民の多くが、軍の圧政の転覆と神の国の実現を混同していました。同じ間違いに陥らないよう気を付けなくては・・・。」

<祈り>

1. 主を信じる者たちが、ミャンマーという地上の国にではなく、永遠の神の国に望みを置くように。主の心に自らの心を合わせ、主が見ておられる神の国を求めることができるように。
2. ミャンマーのクリスチャンたちがこの危険な状況の中でイエス様の目と心をもって、イエス様が御国のビジョンを見つつ、生きられたように、生きていくことができるように。

2日 とともに苦しむ

「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。」イザヤ書 53:4

ミャンマーの人々は「苦しみ」をよく知っています。民族紛争や、幾多の人々を巻き込む貧困、そして50年に渡る軍の過酷な独裁政治に耐えてきました。今回のクーデターは、その長い苦難の物語の新しい1ページです。主イエスは苦難の時に拠り頼める主であるだけでなく、苦難の王ご自身であることを、今まさにミャンマーが知らなくてははいけません。主は茨の冠をかぶられました。そして主は、他の誰よりもミャンマーの人々の痛みと絶望を理解されるのです。

<祈り>

1. 彼らとともに苦しみ、彼らのために十字架で苦しまれた主を、ミャンマーの人々が知るように。
2. キリストに従う私たちが、痛みの中にあるミャンマーの人々に主の苦しみと愛を伝えることができるように。

3日「服従しない」という決断

「それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい。」
ピリピ人への手紙2:4

「市民不服従運動(CDM: Civil Disobedience Movement)」は、今のミャンマーで最も大きな広がりを見せている抗議の形です。軍に支配権を放棄させようと、公務員など公共労働に従事する4人のうち3人(75,000人以上)が仕事を拒否し、銀行や交通網など多業種が麻痺しました。その労働者たちの多くは軍からの拘束や拷問を受け、また公務員住居から立ち退かざるを得ませんでした。そしてある人々は、政府と離れた場で人々に仕えることを選んでいます。

<祈り>

1. 危険と犠牲を覚悟の上で、軍を拒み、人々に仕えることを選んだ
勇気ある労働者たちのために。主が彼らを守ってくださるように。
2. 軍の中枢部の人々の心に主が奇跡をなされ、彼らがミャンマー
を支配する権力の座から退くように。

4日 女性たち

「ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。」
ガラテヤ人への手紙3:28

女性たちは、思いもつかないような方法でクーデター軍と戦います。道に洗濯ひもを張り渡し、民族衣装のタメイン（巻きスカート）をびっしりと吊るすのです。ミャンマーの仏教的俗信では、男性は霊的な威力を持つとしています。しかしその威力は、女性の腰から下の衣類の「汚れ」に触れたり、その衣類の下を潜り抜けたりすることで落ちてしまうというのです。この「タメイン横断幕」は、ミャンマー兵の行進を妨げる強力な武器となりました。

<祈り>

1. ミャンマーの女性たちが自らが神の御目に尊い存在であり、男性も女性もキリストにあって等しく価値ある存在であることがわかるように、主が目を開いてくださるように。
2. 仏教俗信の虚しさを人々が知り、イエス・キリストの福音を受け入れることができるように。

5日 残忍な軍

「主よ 私をよこしまな人から助け出し 暴虐を行う者から守ってください。彼らは心の中で悪を企み 日ごとに戦いを仕掛けてきます。」
詩篇140:1、2

ミャンマーにおいて国軍の残虐はとどまることを知りません。クーデターへの抗議運動鎮圧の初期には、ゴム弾の銃や放水銃が使われました。しかし間もなく市街地での実弾射撃が始まり、数百人の非武装の市民抗議者が命を奪われました。さらにはその葬儀の出席者や、負傷したデモ参加者への救急隊員などにも、発砲したり致命傷となるほどの殴打を加えたりしたりしています。そんな軍の様子を家の窓からスマホで撮影していた市民も銃撃されました。また真夜中に住宅に押し入り、令状もなく人々を逮捕・拘束しています。人々は恐怖のため熟睡できず、心身のストレスは重なるばかりです。

<祈り>

1. 軍の力が砕かれ、市民を脅かすことがなくなるように。
2. 兵士や武装警官たちの心が開かれ、主イエスにある赦しと救いを求めることができるように。

詩篇10篇

主よ なぜ あなたは遠く離れて立ち

苦しみの時に 身を隠されるのですか。

悪しきものは高ぶって 苦しむものに追い迫ります。

彼らが自分の企みに捕らえられますように。

悪しきものは自分自身の欲望を誇り

貪欲なものは主を呪い 侮ります。

悪しきものは高慢を顔に表し 神を求めません。

「神はいない。」これが彼の思いのすべてです。

彼の道はいつも栄え

あなたのさばきは高すぎて 彼の目に入りません。

敵という敵を 彼は吹き飛ばしてしまいます。

彼は心の中で言っています。

「私は揺るがされることなく

代々にわたって わざわいにあわない。」

彼の口は 呪いと欺きと虐げに満ち

下の裏にあるのは 害悪と不法です。

彼は的外れの待ち伏せ場に座り

隠れたところで 咎なき者を殺します。

彼の目は不幸な人をひそかに狙っています。

茂みの中の獅子のように 隠れ場で待ち伏せます。

苦しむ人を 捕らえようと待ち伏せ

苦しむ人を 編みにかけて捕えてしまいます。

彼の強さに 不幸な人は

碎かれ 崩れ 倒れます。

彼は心の中で言っています。

「神は忘れているのだ。顔を隠して

永久に見ることはないのだ。」

主よ 立ち上がってください。

神よ 御手を上げてください。

どうか 貧しい者を忘れないでください。

何のために 悪しき者は神を侮るのでしょうか。

彼は心の中で

あなたが追及することはないと言っています。

あなたは見ておられました。

労苦と苦痛を じっと見つめておられました。

それを御手の中に収めるために。

不幸な人は あなたに身をゆだねます。

みなしごは あなたがお助けになります。

悪しき者と邪悪な者の腕を折り、

その悪を探し出して

ひとつも残らないようにしてください。

主は代々にわたって 永遠の王。

国々は主の地から滅び失せました。

主よ あなたは貧しい人たちの願いを
聞いてくださいます。

あなたは彼らの心を強くし

耳を傾けてくださいます。

みなしごと虐げられたものを

かばってくださいます。

地から生まれた人間が もはや

彼らをおびえさせることがないように。

6日 偶像を捨て去る - マンダレー

「その日に主イエスは来て、ご自分の聖徒たちの間であがめられ、信じたすべての者たちの間で感嘆の的となります。」 テサロニケ人への手紙第二 1:10

マンダレーは、地理的にミャンマーの中心部にある第二の都市です。寺院や仏塔などが数多くあり、毎年多くの参拝者が巡礼に訪れます。このマンダレーで、クーデターに抗議した数百名の人々が殺されました。その中には、後に民主化運動の英雄とみなされるようになった19歳の女性もいます。この暴力と混乱の中で、ある伝道チームが福音を伝え、また人々の生活を支援し、百以上の家族にキリストの希望を届けてきました。多くの祈りがささげられ、一人の女性はキリストに人生を明け渡し、家にある仏壇や神棚を処分しました。

<祈り>

1. マンダレーそして全国で、キリストの証人たちが大胆に語り続けることができるように、さらに多く人が死から救われキリストのいのちの内に生きるようにお祈りください。
2. マンダレーが仏教と偶像礼拝の中心地としてではなく、生きておられる真の神に仕えるキリスト者のあふれる地として知られるように。

7日 停滞する経済

「主は、弱いものをちりから起こし、貧しいものをあくたから引き揚げ…」サムエル記第一2:8

新型コロナ対策のロックダウンに加えて、軍による夜間外出禁止令と、市民の軍支配に抵抗する不服従運動が続き、国のあらゆるシステムがほとんど機能していません。ミャンマーの経済も非常に苦しくなっています。3月には燃料の価格が全国的に15%上がり、ある地域では食料品価格が20~35%も上昇しました。(その後も深刻な物価上昇は続いています。)銀行の機能も停滞しており、多くの人々がATMの前で列をなし、家族を養うために何とか現金を下ろそうと必死です。ATMにも十分な現金補充がなされず、一日中機械の前に並んで待ったのに全くお金を引き出すことができない人たちもいます。

<祈り>

1. 必要のある家族に、主が不思議な方法で豊かに与えてくださるように。キリストの愛を分かち合う働きのためにも、豊かに備えてくださるように。
2. 主が速やかに動乱を収束させ、ミャンマーの経済を回復に導き、何百万もの貧しく弱い立場の人々を貧困の泥沼から引き揚げてくださいるように。

8日 脱走兵、逃走者たち

「私が主を求めると 主は答え全ての恐怖から 私を救い出してくださった。」 詩篇34:4

ミャンマーの軍事政権は市民ばかりか自分たちの兵士たちをも恐怖で支配統制しています。クーデター以来、脱走する兵士が増えています。非武装の市民を銃撃せよという命令を遂行することに耐えられないのです。勇敢に市民不服従運動に参加した兵士たちもいます。またインドに逃れた兵士たちもいます。軍を離れたいと思っている兵士や、将校も実際にはもっというが、恐れにより留まっているのだという報告もあります。退職を願い出る兵士は10年の刑で投獄されるとも言われます。

<祈り>

1. 勇気をもって国軍の暴虐を離れることを決断した兵士たちを感謝します。今なお、恐れに縛られている兵士たちにも勇気が与えられるように。兵士たちやその家族たちが守られるように。
2. 市民も兵士も主を求め、すべての恐れから解放してくださる方を見出すことが出来るように。

9日 主に救えない人はいない

「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなた方に肉の心を与える。」 エゼキエル書36:26

トウンマウンナイン(仮名)はミャンマー海軍の兵士として、多くの罪のない人々を撃ち殺してきました。その後HIV陽性であることが判明して除隊しました。2013年にある伝道者を通して、妻とともに初めて福音にふれました。3週間後、キリストに人生を明け渡し、以来多くのHIV陽性の人々をキリストに導きました。トウンマウンナインの人生は生きた証です。どんなに硬い心、破綻した人生もイエスさまは贖うことができるのです。

<祈り>

1. 神さまがトウンマウンナインのような忠実な伝道者をさらに起こしてくださるように。破綻から贖いだされた経験を証して多くの人々に福音を届ける人を。
2. イエスさまがミャンマー軍の兵士、将校たちの心を和らげてくださるように。そして主に出会い救いを受け取ることが出来るように。

10日 子どもたち

「ですから、だれでもこの子どものように自分を低くする人が、天の御国で一番偉いのです。また、だれでもこのような子どもの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。」
マタイの福音書18:4, 5

国家が混乱の中にある時、いつも子どもたちが犠牲になります。ミャンマーの公立学校は、新型コロナ感染拡大の影響で閉じられたまま、一年が過ぎました。そしてクーデターにより、60を超える学校が軍事拠点として占拠されました。2021年度の学校再開が軍によって告知されたものの、多くの先生方や生徒たちはそれに不服従を表明し、不登校の決断をしています。新型コロナの影響により、2020年の終わりには全国8割以上の世帯で収入が半減しており、子どもたちが栄養失調に陥る危険がますます増大しています。また高まる暴力と社会不安は、子どもたちに深刻な心的外傷を残すでしょう。軍の弾圧によって、少なくとも70人の子どもたちのいのちが失われました(5月下旬時点)。ある6歳の少女は銃撃を受け、父親の腕に抱かれて亡くなりました。

<祈り>

1. 混乱と暴力に囲まれているミャンマーの子どもたちの目、耳、精神、心といのちを、神さまが守ってくださるように。
2. 平和が回復され、子供たちが安心して暮らせるように。子どもたちの目が、彼らを愛しておられる天の父へと向けられるように。

11日 暴力の激化

「まことに、戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる。ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。(中略)その名は『(中略)平和の君』と呼ばれる。」 イザヤ書9:5、6

クーデター反対運動が全国で起こり始めた頃、参加者は忠実に平和主義を守りました。しかし国軍による弾圧が一方的に進む中、多くの反対者は、より攻撃的な自衛策に出るようになりました。火炎瓶や弓矢、手作りの銃が用いられ、さらには国境の民族軍で軍事訓練を受ける者まで出ています。一部の都市では、誰によるのかわからない爆弾が連日爆発しています。「軍政府」に対抗して立ち上がった「民主政府(2020年11月総選挙で選ばれた民主派議員らによる)」は、市民による自衛のための武力行使は合法であるとし、国軍から市民を守るための「人民防衛軍」を結成しました。

<祈り>

1. 主がこの暴力の拡大を終わらせてくださるように。
2. 平和の君であるイエスがミャンマーを治めてくださるように、そして神の王国だけがもたらすことができる真の永続的な平和のために。

12日 ヤンゴンのスラム街での飢餓

「まことに主は 渴いたたましいを満ち足らせ 飢えたたましいを良いもので満たされた。」詩篇107:9

ミャンマーの経済が崩壊の瀬戸際に辛うじて立つ中、貧困層の中でも最下層にいる人々はひどく苦しんでいます。ヤンゴン近郊の最も貧しいスラム街で、新型コロナのロックダウンの中でようやく生き延びていたいくつもの家族は、もはや生きる術を見つけられずにいます。しばらく空芯菜という水に生える野菜だけしか食べていない家族もあります。ある団体は、スラムにいる5000人以上のための救援食糧を3倍にしました。多くの家族がそれを唯一の糧としている状況です。

<祈り>

1. 主がこうした幾つもの家族を飢えから救い、その奇しい御業によって彼らの霊肉の必要を満たしてくださるように。
2. 主の愛によって、貧困家庭への食糧支援をしている団体の働きを主が守り、その働きの必要を満たしてくださるように。

<こうした人々の話を、ここでご覧いただけます。(ミャンマー語音声・英語字幕)>

Watch the stories of some of these desperate families here

<https://www.youtube.com/watch?v=rZ7Cdpv3zvw>

13日 働きの危険

「しかし、あなたがたは勇気をだしなさい。力を落としてはなりません。あなたがたの働きには報いがあるからです。」 歴代誌第二15:7

ミャンマーでの主にある働きに伴う危険が大きくなっており、クリスチャンたちは、命がけて福音を伝え、人々に奉仕しています。軍は、反軍抗議が行われている地域（ほぼミャンマー全土）での支援食糧の配給を違法としています。その中で地域のリーダーたちは、「食料配給の奉仕者たちが勇気を持ち、危険の中でもその働きを続けることができるよう祈ってください」と内外の教会に祈りを要請しています。

<祈り>

1. 難しい地域で、命の危険を冒しながら貧しい人たちに仕え、福音を伝えている主の働き人たちに、神さまの特別な守りがあるように。
2. 信仰者たちが勇気と忍耐をもって働き続けることができるように。主イエスにしっかりと留まり、彼らの労苦と犠牲に報いてくださる主に絶えず信頼することができるように。

14日 内戦？

「主は 地の果てまでも戦いをやめさせる。弓をへし折り、槍を断ち切り、戦車を火で焼かれる。」詩篇46:9

ミャンマーのクーデターについて国際的な反対が高まっており、高まる内戦の危険性に警鐘が鳴らされています。その中で見落とされがちなのですが、ミャンマーではこの70年以上、内戦の絶えることがありませんでした。民族間の争いは歴史上何世紀にもさかのぼり、1948年に国としてイギリスの植民地支配から独立しても続いています。ビルマ族は国土の中心部を占め、長い間、支配的民族として人々の生活のあらゆる分野で力を振るってきました。その一方、国内には20以上の少数民族武装グループがあり、自らの民族独立のためにビルマ軍と戦ってきたのです。このような背景があり、ミャンマーの国境地帯周辺では内戦が続いてきたのです。

<祈り>

1. 何世紀も続いてきた民族間の暴力と憎悪の中に、主イエスご自身の平和がもたらされるように。
2. 神様がミャンマーの長い争いを終結させてくださるように。そして、この諸民族の断絶と戦いの負の遺産を、神さまだけがもたらすことのできる真の愛と一致へと変えて下さるように。

15日 タイ国境近くのカレン族難民

「民よ どんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を 神の御前に注ぎだせ。神はわれらの避け所である。」詩篇62:8

過去70年以上、カレン族の人々はビルマ軍からの独立を目指して戦ってきました。今回のクーデターにより何とか保たれていた最近の停戦協定は壊され、敵意はこの20年の中で最悪に燃え上がっています。3月下旬に軍がカレン族の村を爆撃し始め、それが1週間、ほぼ毎日続きました。それによって40人以上の村人が死亡し、数千人が村を捨ててタイに向かって避難を余儀なくされました。幾つかの団体が協力し、ジャングルや洞窟で避難生活を送る4万人以上のカレン族の人たちを助け40トン以上の米を届けています。しかし空爆の恐れは続いており、食料が常に足りない状態です。

<祈り>

1. 神様がカレン族の人々、特にミャンマーとタイの国境地域に避難している人々の避け所となり、必要を豊かに満たして下さいように。
2. カレン族の信者たちが福音を力強く証し、人々の生活に影響を与えていきますように。彼らのキリストにある希望が困難な状況の中にあっても明るく輝きますように。

詩篇91篇

いと高き方の隠れ場に住む者

その人は 全能者の陰に宿る。

私は主に申し上げよう。

「わが避け所 わが砦 私の信頼する私の神」と。

主こそ 狩人の畏から

破滅をもたらす疫病から

あなたを救い出される。

主は ご自分の羽であなたをおおい

あなたは その翼の下に身を避ける。

主の真実は大盾、また砦。

あなたは恐れない。

夜襲の恐怖も 昼に飛び来る矢も。

暗闇に忍び寄る疫病も

真昼に荒らす滅びをも。

千人が あなたの傍らに

万人が あなたの右手に倒れても

それはあなたには 近づかない。

あなたはただ それを目にし

悪者への報いを見るだけである。

それは わが避け所 主を いと高き方を

あなたが自分のの住まいとしたからである。

わざわいは あなたにふりかからず

疫病も あなたの天幕に近づかない。

主が あなたのために御使いたちに命じて

あなたのすべての道で あなたを守られるからだ。

彼らはその両手にあなたをのせ

あなたの足が石に打ち当たらないようにする。

あなたは 獅子とコブラとを踏みつけ
若獅子と蛇を踏みにじる。

「彼がわたしを愛しているから

わたしは彼を助け出す。

彼がわたしの名を知っているから

わたしは彼を高く上げる。

彼がわたしを呼び求めれば

わたしは、彼に答える。

わたしは苦しみのときに彼とともにいて

彼を救い 彼に誉れを与える。

わたしは 彼をとこしえのいのちで満ち足らせ

わたしの救いを彼に見せる。」

16日 隠せない

「そこで、彼女は自分に語りかけられた主の名を『あなたはエル・ロイ』と呼んだ。彼女は、『私を見てくださる方のうしろ姿を見て、なおも私がここにいるとは』と言ったのである。」 創世記16:13

国軍は、市民への暴力行為や抑圧を国際社会の目から隠そうと躍起になっています。軍事政府は80名以上のジャーナリストを拘束し、民間の報道機関を閉鎖し、4月のはじめまでに国内のモバイルインターネット回線（スマホやポケットルーターなど）を全て遮断することで通信を麻痺させました。それでも摘発を逃れた報道レポーターや勇気ある市民ジャーナリストたちはVPNを使用し、あらゆる手段を用いて、今ミャンマーで起こっていることを世界に発信し続けています。しかしそうした働きの危険も増大する一方です。

<祈り>

1. 勇気をもって国軍の残虐行為を世界に発信し続けている方々が守られ、忍耐を持って働きが続けられるように。彼らの通信手段が守られますように。
2. たとえその窮状が世界に発信されなかったとしても、神様は彼らを見ておられ、その苦しみをご存知であることを、ミャンマーの人々が知ることが出来ますように。

17日 オンライン伝道

「実り多い働きをもたらす門が私のために広く開かれています、反対者も大勢いるからです。」 コリントへの手紙第一16:9

軍による「政府」は、異議を唱える人たちや軍事政権に反対する団体を抑え込むために、国内のインターネットを遮断しました。インターネット技術者たちに銃を向け、強制的に回線を切らせるほどです。ミャンマーではフェイスブックが目立って多く使われていますが、クーデター前には、1170万人以上の人たちにフェイスブックを介して福音が伝えられました。19500人以上の人たちにオンラインで個人伝道がなされ、455人がキリストに対する明確な信仰を持ちました。インターネットの遮断により、これらの新しい信仰者たちが地元教会や牧師と繋がりにくくなり、ミャンマーの全土で福音に触れることができるように、フェイスブックを使い続けようという様々な努力も妨げを受けています

<祈り>

1. 主が新しい信仰者たちを誠実に守り、養い、彼らの信仰が強められ、聖霊により多くの実を結ぶ者と変えられるように。
2. オンライン伝道を通して、福音のために広く効果的な門戸がミャンマーに再び開かれるように。

18日 チン州の抵抗者たち

「私たちの戦いの武器は肉のものではなく、神のために要塞を打ち倒す力があるものです。」 コリント人への手紙第二10章4節

ミャンマーで最もクリスチャン人口の多いチン族は、ビルマ族の文化や仏教に同化させようとするビルマ軍の攻撃的な運動に、長く苦しめられてきました。5月中旬、チン州のミンダットの町では、手製の狩猟ライフルで武装したチン民族軍兵士が、重火器で武装を整えたビルマ軍に立ち向かい、国内の全地域にいる反軍運動参加者たちを励まし、勇気づけました。しかし国軍は、ミンダットの町や村の民家に無差別に雨のように爆弾や対戦車用の擲弾、銃弾を浴びせかけ、最終的にチン民族軍は市民を守るために撤退する決断をしました。ミンダットの町々や村々は国軍によって壊滅し、また占拠され、町の人口の半分(1万人)は森林地帯に身を隠しています。戦災者支援チームは、人々が身を潜めている森の中まで行き、彼らを支えています。俊敏に行動しなければならないこの活動は難しく、危険を伴う働きとなっています。

<祈り>

1. 軍から逃れている数千人のチン族の人々の上に、神様のあわれみが注がれるように。聖霊による慰めがあり、彼らの必要が満たされるように。
2. チン族のクリスチャンたちは霊的な戦いの中にも置かれています。彼らが彼らの本当の敵である悪魔に勇敢に立ち向かい、キリストにある天の力によって、その地にある悪魔の要塞を打ち壊すことができるように。

19日 民族の一致

「実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、…二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。」 エペソ人への手紙 2:14, 16

ミャンマーにある民族間の敵意は何世紀にもわたる根深いもので、クリスチャンの間でさえ、民族が違うゆえの不信感がしばしば見られます。しかしこの数ヶ月で、驚くような変化が起こりつつあります。いくつかの民族グループが、反クーデターの連携をきっかけとして繋がりはじめました。国内民族の圧倒的多数派であり国軍の母体となってきたビルマ族のうちにさえ、これまで他の少数民族の痛みを分かろうとしてこなかったと悔やむ声が続々と上がっています。過去何十年も彼ら少数民族が味わってきた同じ暴虐を、今、経験しているからです。

<祈り>

1. 分断された民族と民族の間に主が真の和解をもたらし、支配者層であるビルマ族に対するものを含め、民族の偏見と敵意の壁を取り壊して下さるように。
2. 残念ながらクリスチャンの間にさえ、この国の未信者たちと同様、民族が違うことによる断絶があります。クリスチャンたちが、キリストの体として一つであることを示していけるように。

20日 監視する目

「瞳のように私を守り 御翼の陰にかくまってください。私を襲う悪しき者から 私を取り巻く貪欲な敵から。」 詩篇17:8-9

ミャンマー軍の「目」はどこにでもあります。軍がクーデターの数か月前にスパイウェア技術を発注し、民間人の電話、メール、およびウェブトラフィック(ウェブサイトへのアクセスなど)を監視できるようにしたという報告があります。また軍組織は「ダラン」をも利用しています。ダランとは地元の情報提供者(密告者)のことで、近所の人々のスパイをさせています。貧困者のために毎日数千人規模の配給を勇敢に行なっていたクリスチャン団体は、ダランの密告によって兵士達に9トンあまりの米を奪われました。

<祈り>

1. 神の国に仕えるミャンマーの諸団体の働きを、主が、軍の目から守って下さるように。
2. 主がミャンマーの人々をその御翼の陰に隠し、暴力から守ってくださるように。

21日 シャン州におけるサバイバル

「あなたがたの神、主は神の神、主の主、偉大で力があり、恐ろしい神。えいこひいきをせず、賄賂を取らず、みなしごや、やもめのためにさばきを行い、寄留者を愛して、これに食物と衣服を与えられる。」
申命記10:17-18

ミャンマーで二番目に大きい民族の故郷・シャン州には、国内で有数の装備を整えた複数の民族軍があります。これらの勢力はミャンマー国軍とだけでなく、互いに争うことがあります。この民族軍同士の紛争により、何千もの家屋が破壊されています。5月下旬には、マンリという静かな小さな村で25軒ほどの家屋が焼失し、村人たちは砲撃から逃れて村を離れざるを得ませんでした。村人たちは生き延びるために、古い農耕用トラクターを改造して間に合わせの輸送車両を作ったり、子どもたちにも安全な水を与えるために雨水を溜めるなど、工夫を余儀なくされています。

<祈り>

1. このような時代に生きるシャン族のクリスチャンたちのために。彼らを支えてくださる主の御力といつくしみに信頼して歩めるように。
2. 戦火により住む村を失ったシャンの家族たちが、再び安心して住める地と生活を得ることができるよう。また、疲れ果てた人々を、主が神の国の希望に結び付けてくださるように。

22日 テインジャン(新年水祭り)

「この人たちは大きな患難を経てきた者たちで、その衣を洗い、子羊の血で白くしたのです。」ヨハネの黙示録7:14

「テインジャン」はミャンマー伝統暦の新年であり、国民に愛される水祭りの季節です。しかし今年は、水を掛け合う楽しさや水で汚れを洗い流す仏教的儀礼の代わりに、ミャンマー各地が人々の血で染まりました。デモ参加者は、軍主催の新年祝賀会のボイコットを叫んだり、伝統的なテインジャンの慣習を抗議の象徴として再定義したり、あるいはあらゆる祝祭を中止し軍の弾圧の犠牲となった何百人もの人々を追悼する時としたりしました。多くの人々にとって、今年の祭りは祝いではなく、悲しみと反抗の時となりました。

<祈り>

1. 罪の汚れを真に洗い流すことができる唯一のお方、イエス・キリストの血で、ミャンマー全土が覆われるように。
2. 多くの人々の心が、この深い悲しみと怒りから解放され、癒され、キリストにあって新しくされ、本当の意味で喜び祝う理由を見出すことができるように。

23日 社会的懲罰

「愛する者たち、自分で復讐してはいけません。神の怒りにゆだねなさい。こう書かれているからです。『復讐はわたしのもの、わたしが報復する。』主はそう言われます。」 ローマ人への手紙 12:19

若者たちの中には、多少問題のあるソーシャル・メディアの使い方で、ミャンマー国軍のクーデターに抗議している人たちがいます。「社会的懲罰」と呼ばれる方法で、軍人の家族や、クーデターへの反対を公にしていない有名人をソーシャル・メディア上で攻撃するものです。しばしばそれらの人々の写真や家族関係の詳細、職場や電話番号まで公開します。あるクリスチャンの少女は、国軍の元将軍の孫娘であるがゆえに標的となりました。彼女が社会的に罰せられたことによって、自分が標的になることを恐れている家族や親戚に神の愛と赦しを伝える道が開けました。

<祈り>

1. 反クーデター運動の参加者たちが、ソーシャル・メディアを使って報復攻撃をするのではなく、神の御手に復讐を委ねることができるように。
2. 神が社会的懲罰の標的となっている罪のない人々を守ってくださるように。また、クリスチャンたちがそのような人々に神の愛を伝えられるように、主が扉を広く開いてくださるように。

24日 国民統一政府 (National Unity Government)

「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です。」コロサイ人への手紙3:14

水祭りの最後の日(4月16日)、連携した民主派勢力(2020年11月の選挙で選ばれた議員ら)は、国軍の軍事政権に対抗する新しい政権「国民統一政府」(NUG)の発足を発表しました。NUGは、退陣した文民指導者、反クーデター運動者、国境地帯の少数民族武装集団などで構成されており、軍事政権ではなく、自らこそが国民が選んだミャンマーの正統な政権であるとしています。NUGは、さまざまな民族がこれまでにないような形で団結する可能性を秘めています。その一方で、ミャンマーの将来にとって鍵となる重要な問題を投げかけています。それは「この新たな団結は、互いの幸せへの願いで結ばれているのか、それとも国軍への憎しみだけで結ばれているのか」ということです。いつか国軍がなくなったとしても、この団結力は失われないのでしょうか。

<祈り>

1. 国軍に抑圧されてきたすべての民族の心が、憎しみや恨み、復讐心に支配されないように。
2. ミャンマーの諸民族が、憎しみではなく、互いへの理解と隣人への真の思いやりで結ばれ、永続的な結束を結ぶことができるように。

25日 捕らわれ人

「捕らわれ人のうめきが 御前に届きますように。あなたの大いなる力のゆえに 死に定められた人々を 生きながらえさせてください。」
詩編79:11

クーデター発生以来、国軍は軍政権に反対する4000人以上の人々を拘束してきました（5月中旬時点）。釈放された囚人たちは、投獄中に兵士からガラス瓶で殴られたり、送電線で鞭打たれたりしたと報告しています。また国軍の方でも、人々に恐怖心を植え付ける目的か、拷問を受けた囚人の写真を公開しています。軍は、クーデター以前からの囚人の数千人を2月に釈放しました。その直後に各地で放火騒ぎや家庭の水タンクが汚染されるという事態が起こり、釈放囚人が軍から金を受け取って行ったと言われています。その一方で国民統一政府や国際社会は、反軍運動の囚人など政治犯の解放を求めています、軍はそれに耳を貸そうとしません。

（補足：軍は、反軍デモ参加などの理由で逮捕・拘束されていた人のうち半数にも満たない二千人余りを、6月30日に釈放しました。）

<祈り>

1. ミャンマー国軍によって不当に投獄され拷問を受けている人々の叫びを主がお聞きになり、その偉大な御力とあわれみにより彼らを守ってくださるように。
2. 聖霊が国軍の人々の心を変えてくださり、政治犯とミャンマーの国全体が自由にされるように。

詩篇146篇

ハレルヤ。

わがたましいよ 主をほめたたえよ。

私は生きているかぎり 主をほめたたえる。

いのちのあるかぎり 私の神にほめ歌を歌う。

あなたがたは君主を頼みとしてはならない。

救いのない人間の子を。

霊が出ていくと 人は自分の土に帰り

その日のうちに 彼の計画は滅び失せる。

幸いなことよ ヤコブの神を助けとし

その神 主に望みを置く人。

主は 天と地と海

またそれらの中のすべてのものを造られた方。

とこしえまでも真実を守り

虐げられている者のためにさばきを行い

飢えている者にパンを与える方。

主は捕らわれ人を解放される。

主は目の見えない者たちの目を開け

主はかがんでいる者たちを起こされる。

主は正しい者たちを愛し

主は寄留者を守り

みなしごとやもめを支えられる。

しかし悪しき者の道は 主が曲げられる。

主は とこしえにすべ治められる。

シオンよ あなたの神は 代々にすべ治められる。

ハレルヤ。

26日 ロヒンジャ族の希望

(注:日本の報道では「ロヒンギャ」との表記がほとんどですが、ミャンマー語発音は「ロヒンジャ」です。)

「貧しい者は決して忘れられることがなく 苦しむ者の望みは 永遠に失せることがない。」 詩篇9:18

ミャンマー最大のイスラム教少数民族であるロヒンジャ族は、ミャンマーで長い間、ひどい苦しみを味わってきました。2017年、国軍は殺人、レイプ、放火などの残酷な戦闘を展開し、74万2千人以上のロヒンジャ難民がバングラデシュに避難しました。過去の軍政時代そして民政移行した後も、政府は長年、ロヒンジャ族の人々の苦しみを緩和すると約束しながらそれを偽ってきたため、ロヒンジャ族の多くが追い詰められ、絶望に落とされました。今、国民統一政府は、ロヒンジャ族に軍事政権への抵抗に加わるよう呼びかけ、完全な市民権と正当な人権、難民状態からの安全な帰還を約束しています。

しかし、ロヒンジャ族の人々にとって、もっと優れた希望があります。ミャンマーのクリスチャンや奉仕リーダーたちの多くは、ミャンマーの一般的な価値観に流され、イスラム教徒であるロヒンジャ族の人々を軽蔑していますが、積極的に彼らに福音とイエスの愛を伝えている人々もいます。カレン族の教会開拓者と、家族とともにキリストを信じたロヒンジャ女性との間に一人の子どもが生まれました。この子の存在は、救いの希望と、神さまご自身がロヒンジャ族との民族的和解を望んでおられることを、私たちに思い起こさせてくれます。

<祈り>

1. ロヒンジャ族の人々が尊厳と公正をもって扱われ、神に創造され、愛されている人々として認められるため、ミャンマーが大きな変化を遂げることができるように。
2. イスラム教徒であるロヒンジャ族の人々に主イエスの愛を伝えるクリスチャンがミャンマーの地でもっと起こされるように。また、現在の苦しみの中でキリストに出会い、希望を見出すロヒンジャ族の人々がさらに多く起こされるように。

27日 敵を愛する

「あなたがたの敵を愛しなさい。あなたがたを憎む者たちに善を行いなさい。」 ルカの福音書6:27-28

過去何十年もの国軍による虐待と不正のゆえに、クリスチャンを含めたミャンマーの人々の心は、国軍への激しい怒りに塗り固められています。それでも、今回のクーデターの中にあっても、キリストに固く従う少数の者のうちには、主イエスの革新的な教えの通りに実際に生きようとする人もいます。ある伝道者はその経験をこう語ってくれました。「もし主イエスを知らなかったら今のような状況をどう生きたら良いか分からなかったでしょう。『敵のために祈る』と私たちは言います。今ほど、それが難しい時はありません。主イエスが私の心を変えて、その通りに生きる力を与えてくださったのです!」

<祈り>

1. キリストに従う人々が敵への深い愛を持てるように、神の御霊がその心を強め、新しくつくり変えてくださいますように。
2. 世の生き方とは違う、キリストに従う人々の新しくされた生き方を、神が、主イエスを世に示すために用いてくださいますように。それにより、ミャンマーが真の和解に向けて動かされていきますように。

28日 闇の抗争に巻き込まれる

「あなたの国には暴虐はもう聞かれず、あなたの領土には暴行と破滅は聞かれない。あなたは、あなたの城壁を救いと呼び、あなたの門を賛美と呼ぶ。」イザヤ書60:18

ミャンマー全土に国軍による暴力が広がる中、国内最貧のスラムでのやくざ集団の抗争も増大しています。法律がもはや力を失い、警察不在の中、やくざ集団は「おれたちが守ってやる」として地域に入り込みます。危険の中での安心感や人々の中での居場所、混乱した状況に秩序をもたらしてくれる誰かを切に求める男性たちや若者たちがおり、やくざ集団の常として、そのような人々を喰いものにします。結果、暴力が激増しました。山刀や火炎瓶で武装した彼らは、非常に執念深く、血塗られた事件と殺人を急速に拡大させています。あるクリスチャン団体によると、やくざ集団に入った二人の若者が、わずか2ドルをめぐる争いで命を落としました。

<祈り>

1. スラムの住民のために主に叫び求めてください。神が彼らを守り、暴力に代わって、主の救いがスラムに満ちますように。
2. やくざ集団のリーダーたちのために。主なる神が彼らの心を新しくし、貧しく寄る辺ない人たちを真実に護る者へと変えられるように。

29日 スラムに生きる

「あなたがたは私に悪を諮りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました。」創世記50:20

ミャンマーのスラムでの生活は、かつてなかったほどひどい状態になっています。けれども、神は時として、混乱と恐れの中で非常に力強く働かれます。何年もスラムの貧しいいくつもの家庭に仕えてきたある団体は次のように語っています。クーデター以降、その団体のスタッフは毎月1,000人の新しい人々に福音を語ってきました。その結果、多くの家庭で家族全員が信仰を持ち、記録的な人数の人々が洗礼を受けました！あるリーダーはこう話します。「今私たちのセルグループは人でいっぱいです。毎週ますます多くの魂が、彼らを取り巻く絶望の答えを求めてやって来ます。そして多くの人が主イエスに希望を見出し、それらのグループに家庭のような居場所を見出しています。わずか数ヶ月の間に300人以上が新しく信者になり、教会とセルグループに加わりました。

<祈り>

1. 社会から無視されたスラムの人々に命と希望をもたらされたイエスをほめたたえましょう。そして祈りましょう。神が、ミャンマー全土にこのような動きを力強く起こしてくださるように。
2. ミャンマーのあらゆる苦しみ、不公正、心の痛みも、主によって正され、癒されるように。

<新しく信者となった人々の証をここでご覧いただけます。(ミャンマー語音声・英語字幕)>

Watch the testimonies of a few of these new believers here

<https://www.youtube.com/watch?v=7C0nr4XgLWU>

30日 仏教との不協和

「天から遣わされた聖霊により福音を語った人々を通して、… 御使いたちもそれをはっきり見たいと願っています。」 ペテロの手紙第一 1:12

ミャンマー仏教の教えと、人々の日常生活との間のズレは大きくなるばかりです。

仏教は、苦しみから逃れる道は人生から離れることであると教えます。それがゆえに40代、50代になって家族を捨て、悟りを求めて残りの人生を僧院で過ごす男性は珍しくありません。多くの人は、国軍に対して燃える憎しみを抱いています。またあらゆる階層、あらゆる民族の人々は、それぞれの共同体とともに、彼らが追い求めてやまない「それぞれの自由」のために命がけて闘っています。一方では自由のために戦い、もう一方ではすべてを捨て、悟りを得ることのみに集中します。人々は苦しみや心の深い呻きに対して、満足のいく人生の答えを見出すことが出来ないのです。

<祈り>

1. 今日の不安定さと混乱によって、多くの仏教徒が、彼らの信仰は探求している答えを与えてくれないと悟ることができるように。
2. 多くの仏教徒が、福音を聞き、探し求めている全てのものは主イエスによって満たされることを知るように。

終わりに

これからミャンマーでどんなことが起ころうとしているのか、今の時点ではだれにもわかりません。しかし、イエスに従う者たちとして、私たちはミャンマーも含めたこの世界の物語の「結び」を知っています。

神はミャンマーの人々の目から 涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のもものが過ぎ去ったからである。(黙示録21章4節 参照)

主は 義とさばきを 全ての虐げられているミャンマーの人々のために行われる。(詩篇103篇6節 参照)

主は多くの民族の間をさばき、遠く離れた国々に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。(ミカ書4章3節 参照)

ミャンマーの全ての国民、部族、民族、言語から、数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、救いは御座についておられる私たちの神と子羊にあると大声で叫ぶ。(黙示録7章9、10節 参照)

まことに、水が海をおおうように、ミャンマーのすべての州、地域、都市、近隣、そして村々は、主の栄光を知ることによって満たされる。(ハバクク書2章14節 参照)

ミャンマーでの神様の贖いの物語は、まだ終わっていません。それでも私たちは祈ります。主イエスよ、来てください。

Antioch Missions International, Crazy Love Ministries, YWAM
Kona and IHOP KC

Reach us at info@goldenshores.org

日本語版追記

ミャンマーコロナの現状のためにお祈りください。(2021年7月末
現在)

31日 コロナ感染拡大 現況概観

「……主はわざわいを下すことを思い直し、民を滅ぼす御使いに言われた。『もう十分だ。手を引け。』」 サムエル記第二 24:16

6月ごろから新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大が加速しています。軍保健当局のによれば一日の陽性者数は7月中旬7000人を超え、検査陽性率も35%の高い水準が続いています。しかし、圧倒的に検査数が不足している今、実際の感染者数は、公式に発表されているものを、はるかに上回ると思われます。死者数も急増し、ヤンゴンの火葬場では、一つの炉で複数の遺体を同時に焼いても追いつかない状態です。

これまでに軍評議会は、不服従運動に参加する医療従事者たちを逮捕・拘束・指名手配するなどしてきました。今回の感染拡大において医療は早々に崩壊、発症者の多くは自宅療養以外になく、家族や地域に感染が広がっています。

また軍評議会は、医療用酸素やそのボンベ充填設備、流通ルートなどを強くコントロールしています。酸素吸入ができれば助かったであろう死亡者が非常に多く、「抗議デモへの銃撃以上に深刻な虐殺行為だ」との声が上がっています。

解熱剤などの市販薬でさえ容易に手に入らなくなっています。

<祈り>

1. 主が、新型コロナの感染拡大をご自身の方法で止めてくださるよう。
2. 最前線で働いている医療従事者やボランティア、敷地の一部を臨時的隔離介護施設として仕えている教会の奉仕者たちが、感染などから守られるように。

32日 医療関係者の闘い ～ クーデターそしてコロナ

「この苦しむ者が呼ぶと、主は聞かれ、すべての苦難から救ってくださった。」詩篇34:6

2月のクーデターを受けて多くの医師たちが不服従運動を先導し、医療機関を離れることで軍に対する抵抗をしてきました。人々はこれを強く支持し、たとえ病気になっても軍の支配下に置かれた公的医療機関に行かずに自身の病気と闘ってきました。コロナの検査や隔離施設も軍の管理下にあるため、不信感と抵抗の思いから多くの人たちが行かないという決意をしています。抵抗をする医師たちは弾圧を受け、拘束の危険があるため身を隠していますが、このコロナ禍に苦しむ人々のため、危険を知りつつも携帯などを使ってひそかに診療を続けています。しかし、物流も阻害され、必要な医薬品や医療用酸素の供給も滞る状況の中、多くの人たちが十分な治療を受けられずに自宅で亡くなっています。

<祈り>

1. 神様のあわれみがこの国の人々の上であり、クーデターとコロナの2つの大きな苦しみからの解決の道が開かれ、救われますように。
2. 診療活動をしている医師たちが守られ、必要な医薬品や酸素の供給が守られ、必要な治療をすることができますように。

現場レポート ボランティアのこと

都会ヤンゴンにはエレベーターのない高層アパートが多い。人々は高齢者や重病人などに対し、食事が必要な人は白い旗を軒先に掲げ、酸素など医療ケアが必要な人は黄色い旗を掲げるよう呼びかけている。もちろん、感染力の強いウイルスのこと、防護服を着ないまま現場に行けば自分自身に危険が及ぶ。そんな状況の中で、日夜、医療ボランティアが働いている。

高層階の住人が重病化し、誰にも気づかれないまま自宅で息を引き取るケースもある。しかし、現場はそれだけでは終わらない。遺体をビニールで丁寧に包み、火葬場まで運ぶ作業をひたすら続けているボランティアもいる。火葬場では普段の20倍もの遺体が、その順番待ちをしている状態だ。もちろんそこで働く人にも感染のリスクがある。しかし、彼らも人々にとってなくてはならない存在だ。

2月1日にクーデターが起こり、不服従運動をいち早く始めたのは、公立の医療関係者であった。軍は彼らを指名手配し、拘束され、投獄された医師、看護師も多い。ウイルスの拡散を食い止めるための方策に苦慮する軍は、医療関係者に対し、雇用ベースで公立病院に戻るよう呼びかけた。もちろんこれを信じて受け入れる人はいない。病院に戻れば拘束の危険がないはずがないのだ。

そして間もなく事件が起きた。ボランティアで住民の診察をしている医療チームに、軍・警察は電話で偽の診察依頼をし、医療チームが現場に向かったところで彼らを拘束したのだ。

「軍に従えば医療が受けられる。従わなければ酸素は与えない。」と彼らは言う。

国民を自ら殺害してきた軍に、国民を救うことはできないのは明らかなこと。そんな状況の中で働く医療関係者、ボランティアたちのために、祈りとサポートが必要である。

33日 市民の暮らし ～ 不安の中に

「あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを伸ばすことができるでしょうか。」 マタイ6章27節

今はコロナの流行がごく身近にせまっており、自分や家族がいつか病気にかかるのではないかと恐れながら、発熱し具合の悪くなる家族や友人の看病をしています。軍の管理する隔離施設、治療施設などはどうてい信用ならないし、まして世話になるなんて考えられないと多くの人々は思っています。

ミャンマーは大家族で暮らすことが多く、個室など隔離する場所 はなかなか確保できません。家族の一人から始まって家族全員が感染すると、食事の準備や看病もままならない状況になります。

頼みとする医薬品も薬局の棚から消え、医療用酸素は並んでも、並んでもなかなか手に入りません。そんな中、毎日、身近な人が亡くなったとの知らせを聞き、いつ自分の番がくるかと、不安の中で過ごしています。せめて免疫力を高めて自衛しようと、卵など栄養価の高い食べ物を買って求めます。市場やスーパーの棚からは商品がなくなり、卵の価格は数カ月前の2倍を超えました。

<祈り>

1. 大きな不安の中にも、確かにおられる主を見上げることができ ますように。
2. クリスマンたちが主を信頼し続ける中で、主にある希望が証さ れていきますように。

34日 教会 ～ コロナ禍の中で仕える

「キリストは私たちのために、ご自分の命を捨ててくださいました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから、私たちも兄弟のために、命を捨てるべきです。」ヨハネ第一 3章16節

コロナ禍に苦しむ人たちを熱心に支援してきたリーダーの一人が、コロナを発症しました。酸素が必要でしたが供給が間に合わず、先日亡くなりました。すでに多くの人たちが愛する家族、友人を失い、深い悲しみの中にあります。多くの牧師たちがコロナで亡くなっているのは、病気の人とのかかわりが多いためでしょう。

ミャンマーでは昨年のコロナ第一波から一年以上も、教会で集まることが出来ずにいます。オンライン礼拝をしている教会もありますが、モバイルデータ通信の統制で多くの人々が配信を受けられなくなり、みことばを聞く機会が非常に少なくなっています。一方、重荷をもってひそかに小さな家庭集会を続けている教会もあります。

クーデター以降、ボランティア活動も弾圧の標的となりました。そのため、教会としての支援活動の多くは、拘束や物資押収を避けてひそかに行われています。ある教会では一部を隔離施設として提供し、感染者家族に食事支援や看護をすることで地域の人たちを支えています。

< 祈り >

1. 多くの人々が悲しみの中にあります。主の慰めが豊かにありますように。ともにおられる主を信じて祈り続けることができますように。
2. 感染のリスクや、軍の標的になるリスクを抱えながらも、献身的に支援活動をしている兄弟姉妹を通して、さらに神様の愛が証しされていきますように。

